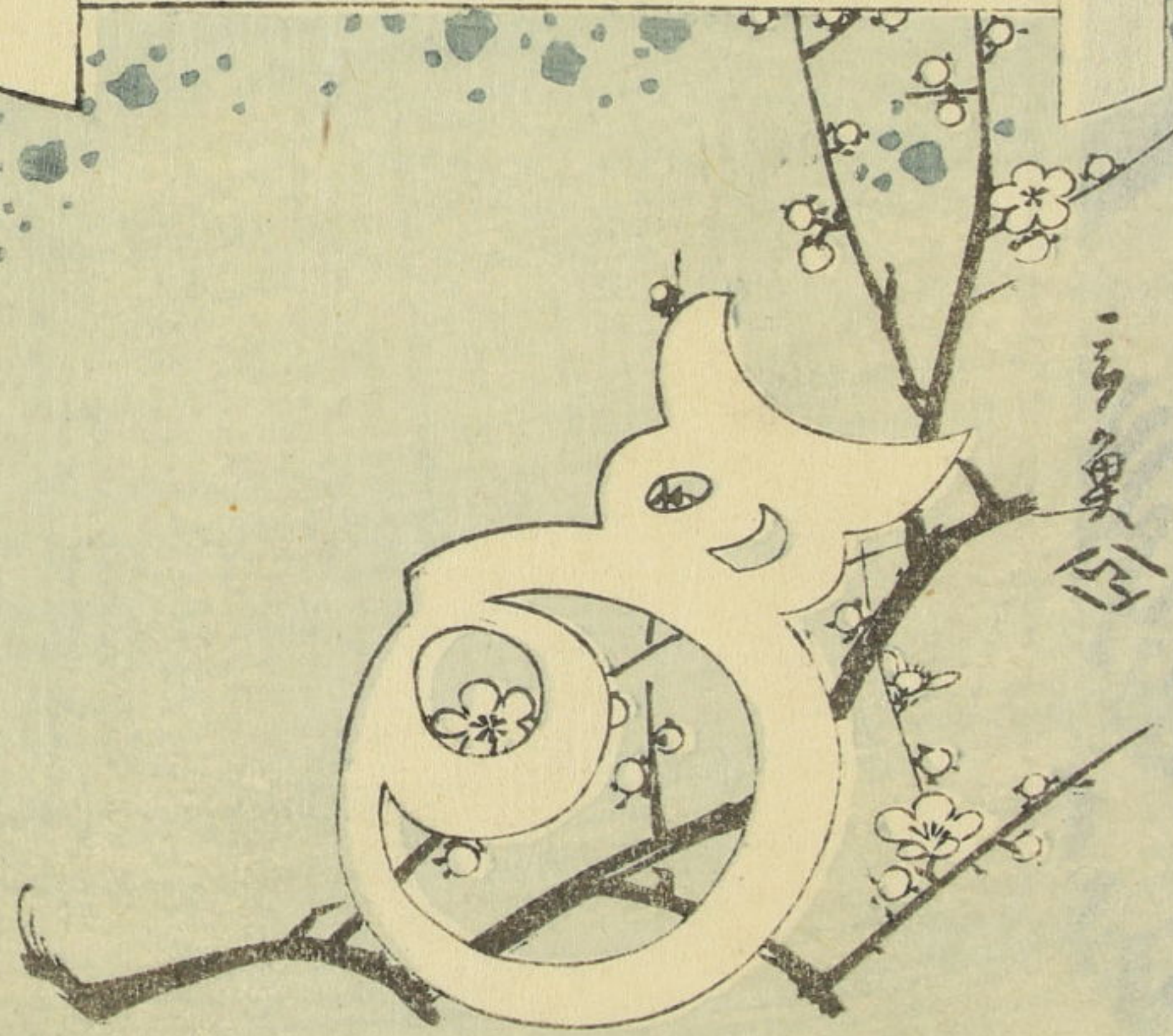


^ 13  
 3756  
 12



時代鏡三十四  
編下冊  
為永春水著  
一壽齋國貞画  
若林堂



北雪美談三十  
四篇上之卷



春水作國貞画  
若林堂



北雪美談  
時代鏡

三十四編下

喜水作

國貞画

外題曲豆國連

名林

文庫

三十四編上

乙丑

新装

北雪  
美談  
時代鏡



三十五編下

新丑  
鏡

國貞画

三十五編上

いし  
まき



時代鏡

三拾六編下

三拾六編上

丙寅新春  
為永春所作  
梅蝶樓國貞画

永春

元治

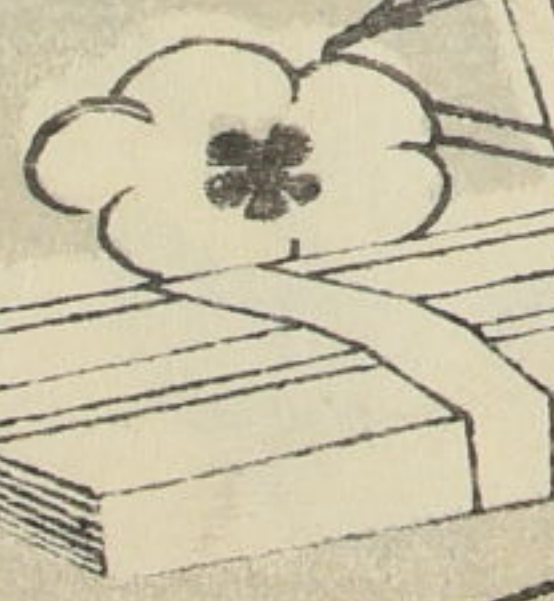
甲子新鑄

為永春水

寺代三十一日



Handwritten text on several vertical strips of paper, possibly representing a fan or scrolls. The text includes characters like 'あはれ' and 'あはれを四方に'.



門 べ 12  
號 3756  
卷 12

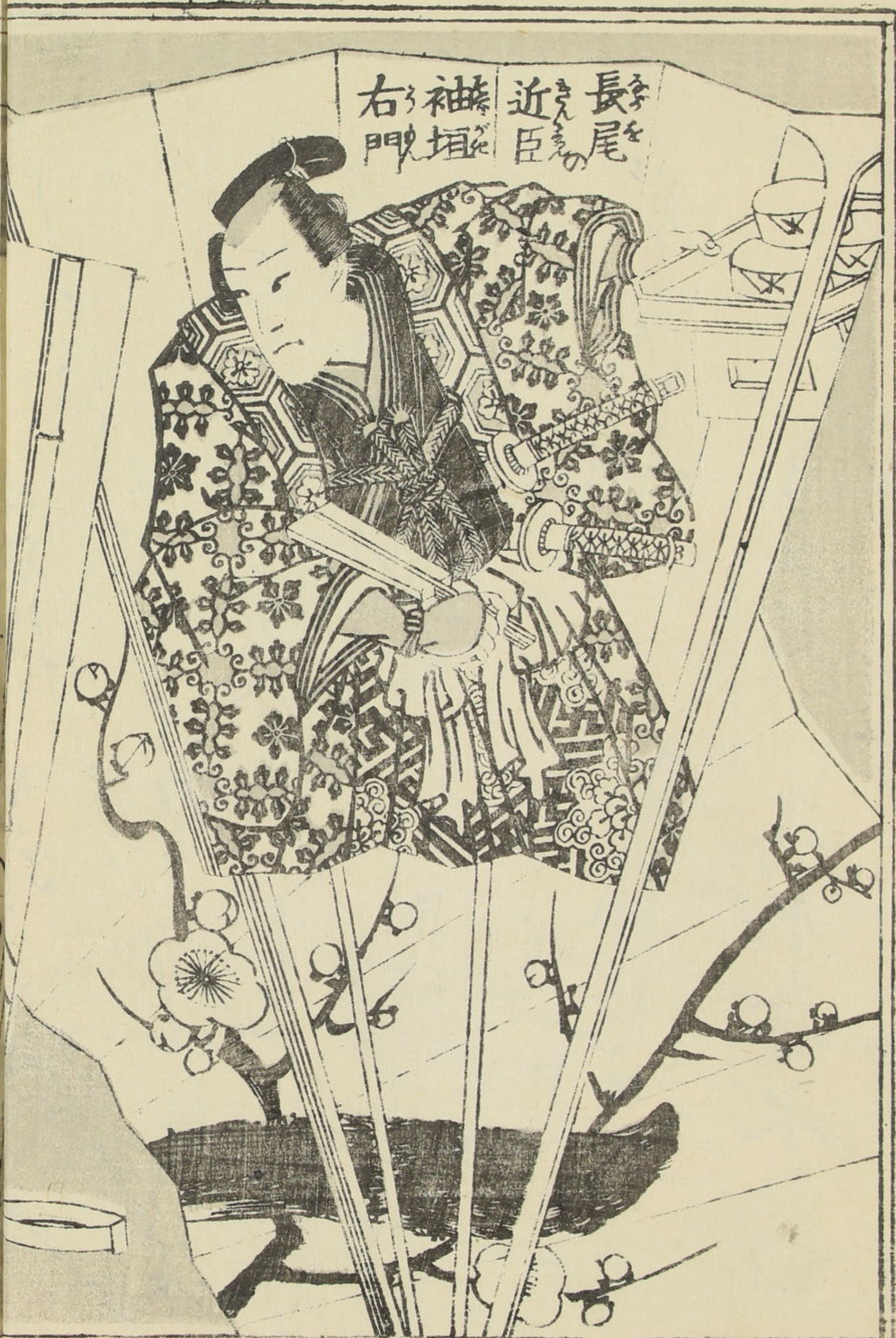
Handwritten text in the upper section of the right page, including characters like 'あはれ', 'あはれを', and 'あはれを四方に'.





毒虫の娘

長尾 近臣 右袖垣 門

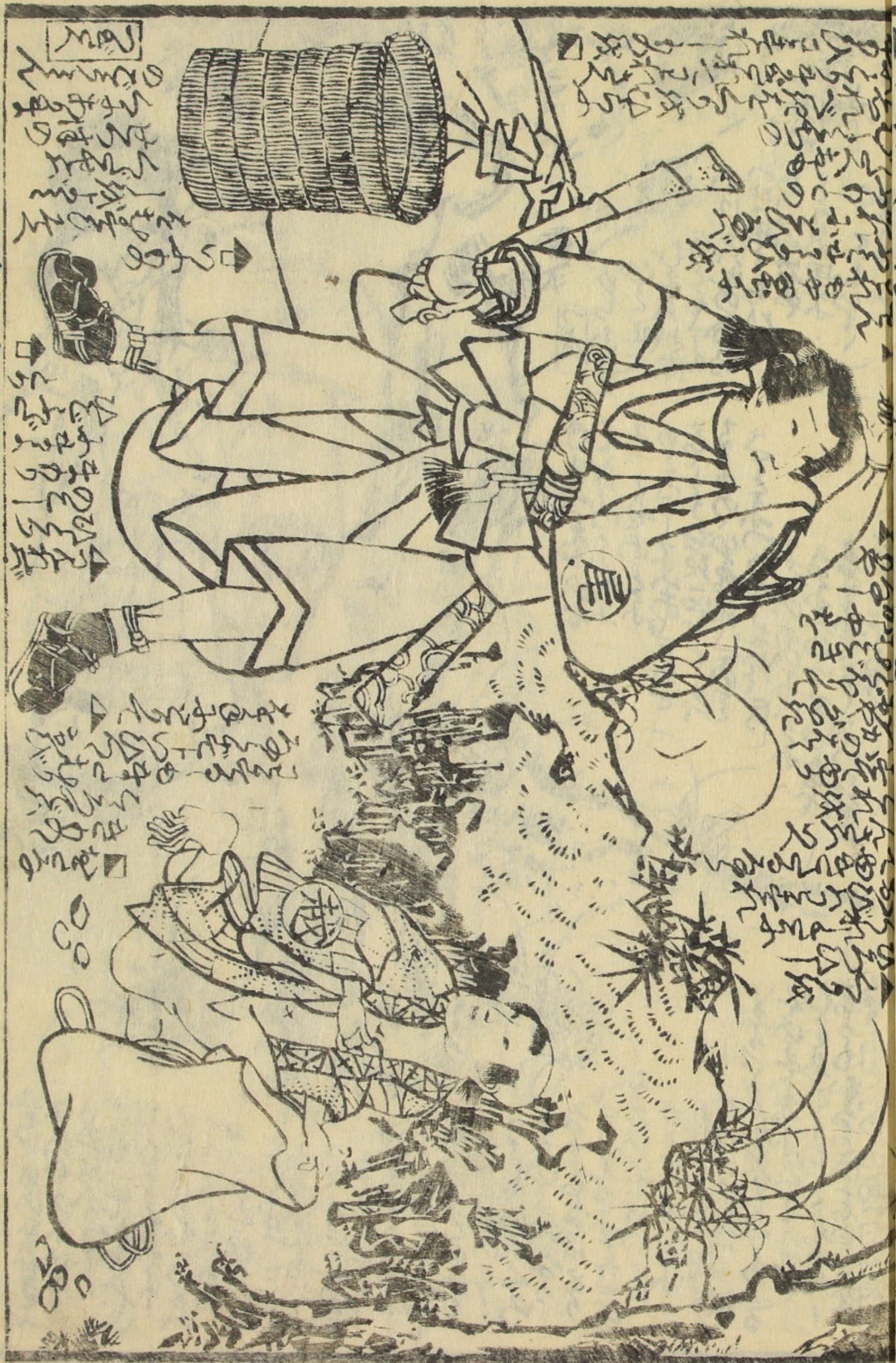




旅  
 偽梵  
 論  
 作字



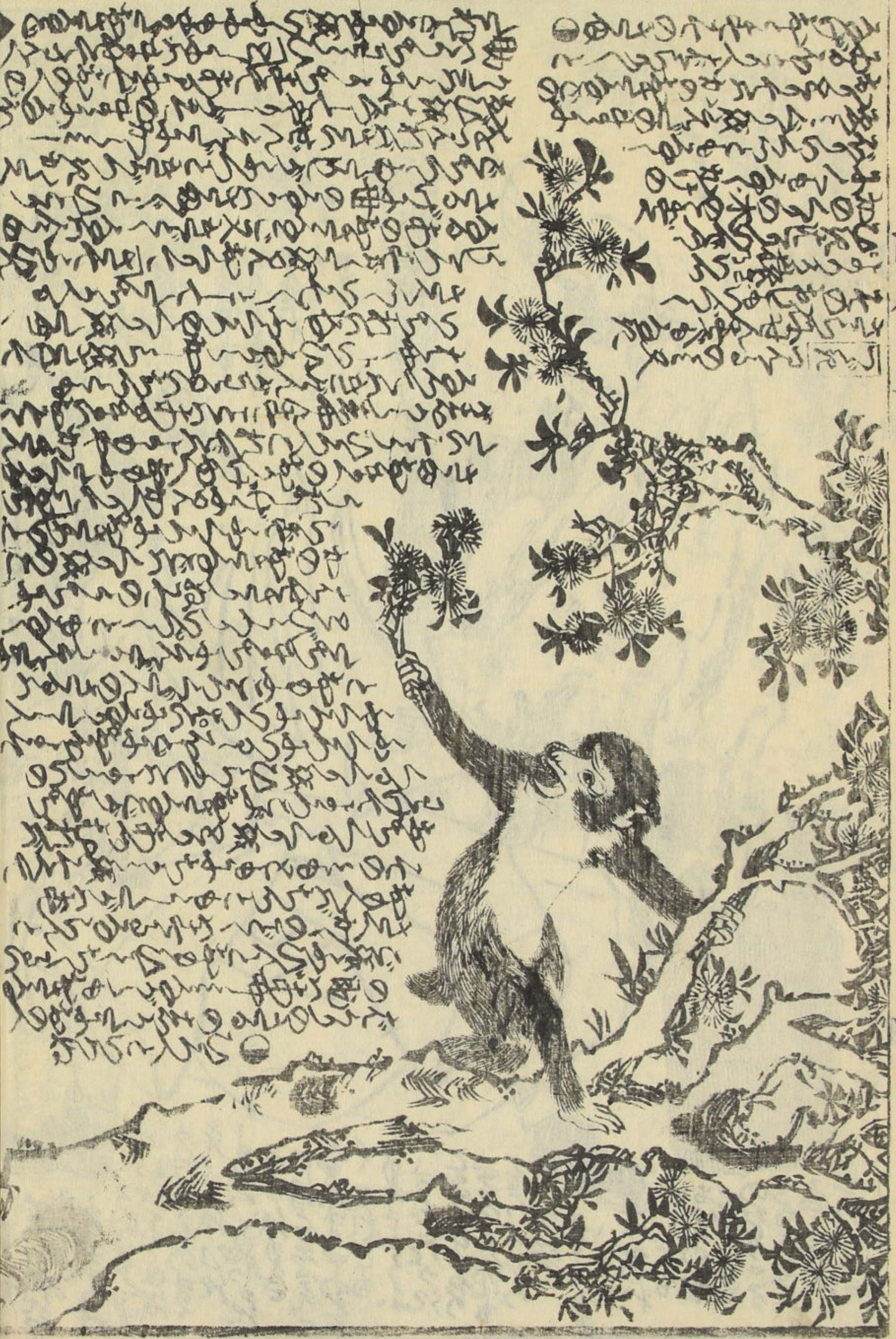




Handwritten Japanese text in the upper left corner of the illustration.

Handwritten Japanese text on the left margin of the illustration.

Handwritten Japanese text on the left margin of the illustration.



Large block of handwritten Japanese text on the left side of the illustration.

Handwritten Japanese text in the upper right corner of the illustration.

Handwritten Japanese text on the right margin of the illustration.

Handwritten Japanese text on the right margin of the illustration.



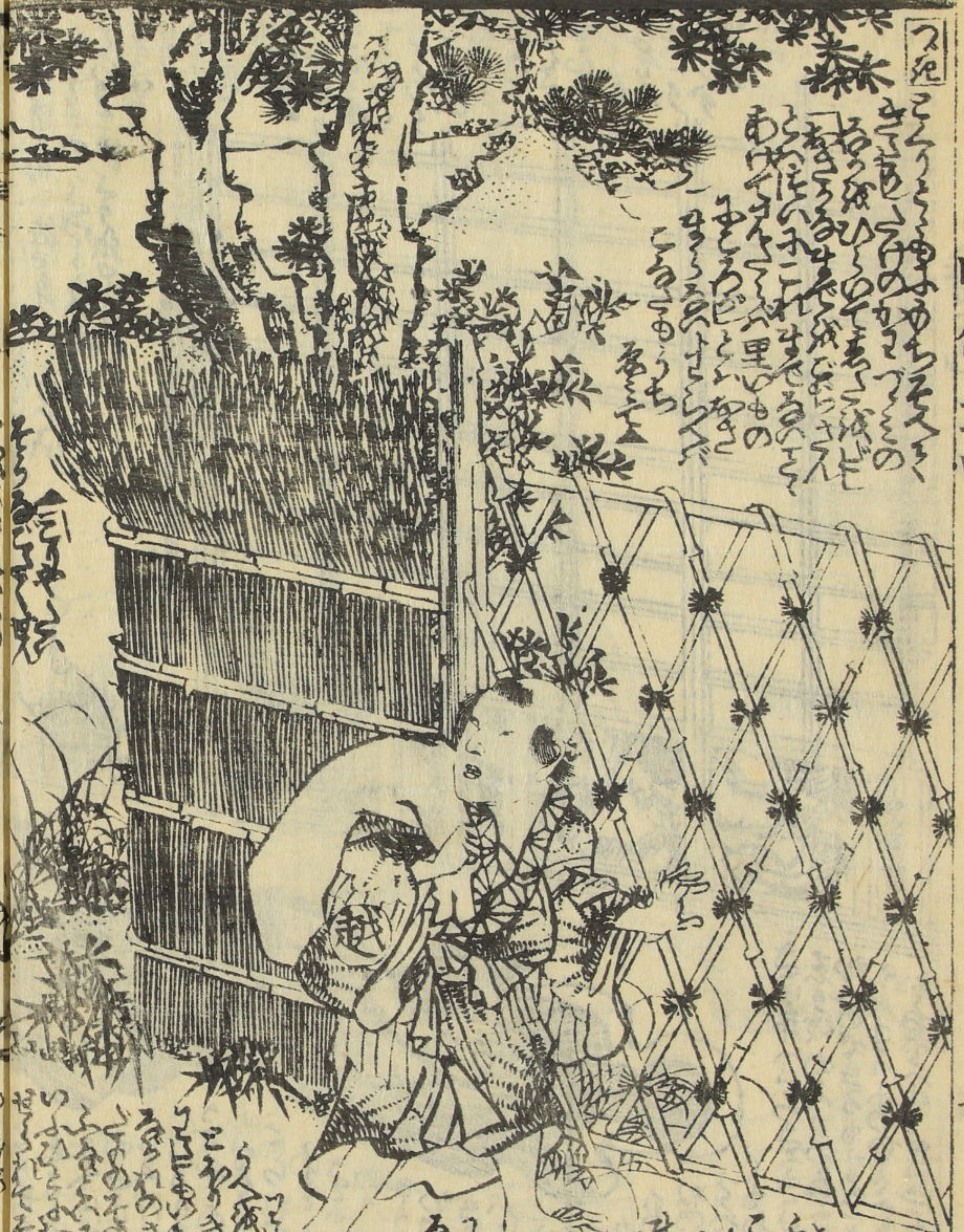




廿三

Handwritten Japanese text in the upper right quadrant of the left page, likely a commentary or poem related to the illustration.

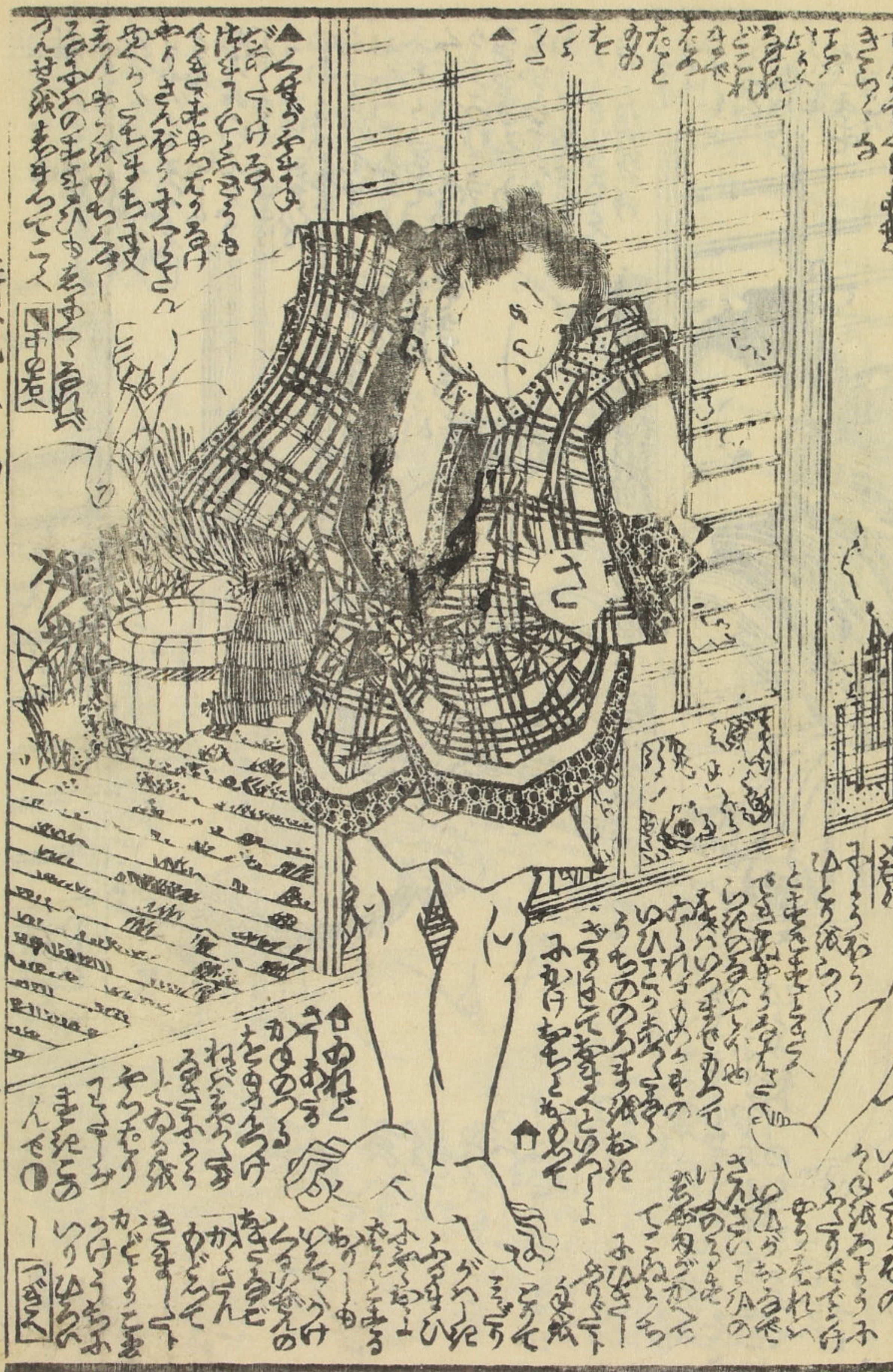
Handwritten Japanese text in the lower half of the left page, continuing the commentary or poem.



日

Handwritten Japanese text in the upper right quadrant of the right page, likely a commentary or poem related to the illustration.

Handwritten Japanese text in the lower half of the right page, continuing the commentary or poem.



寺ノ三ノ四

▲ 此の如きもの  
は、昔の人の  
衣類の一種  
なり。其の  
形は、今  
の如きもの  
と異なり、  
其の用は、  
今と異なり  
なり。

▲ 此の如きもの  
は、昔の人の  
衣類の一種  
なり。其の  
形は、今  
の如きもの  
と異なり、  
其の用は、  
今と異なり  
なり。

▲ 此の如きもの  
は、昔の人の  
衣類の一種  
なり。其の  
形は、今  
の如きもの  
と異なり、  
其の用は、  
今と異なり  
なり。



寺ノ三ノ四

▲ 此の如きもの  
は、昔の人の  
衣類の一種  
なり。其の  
形は、今  
の如きもの  
と異なり、  
其の用は、  
今と異なり  
なり。

▲ 此の如きもの  
は、昔の人の  
衣類の一種  
なり。其の  
形は、今  
の如きもの  
と異なり、  
其の用は、  
今と異なり  
なり。









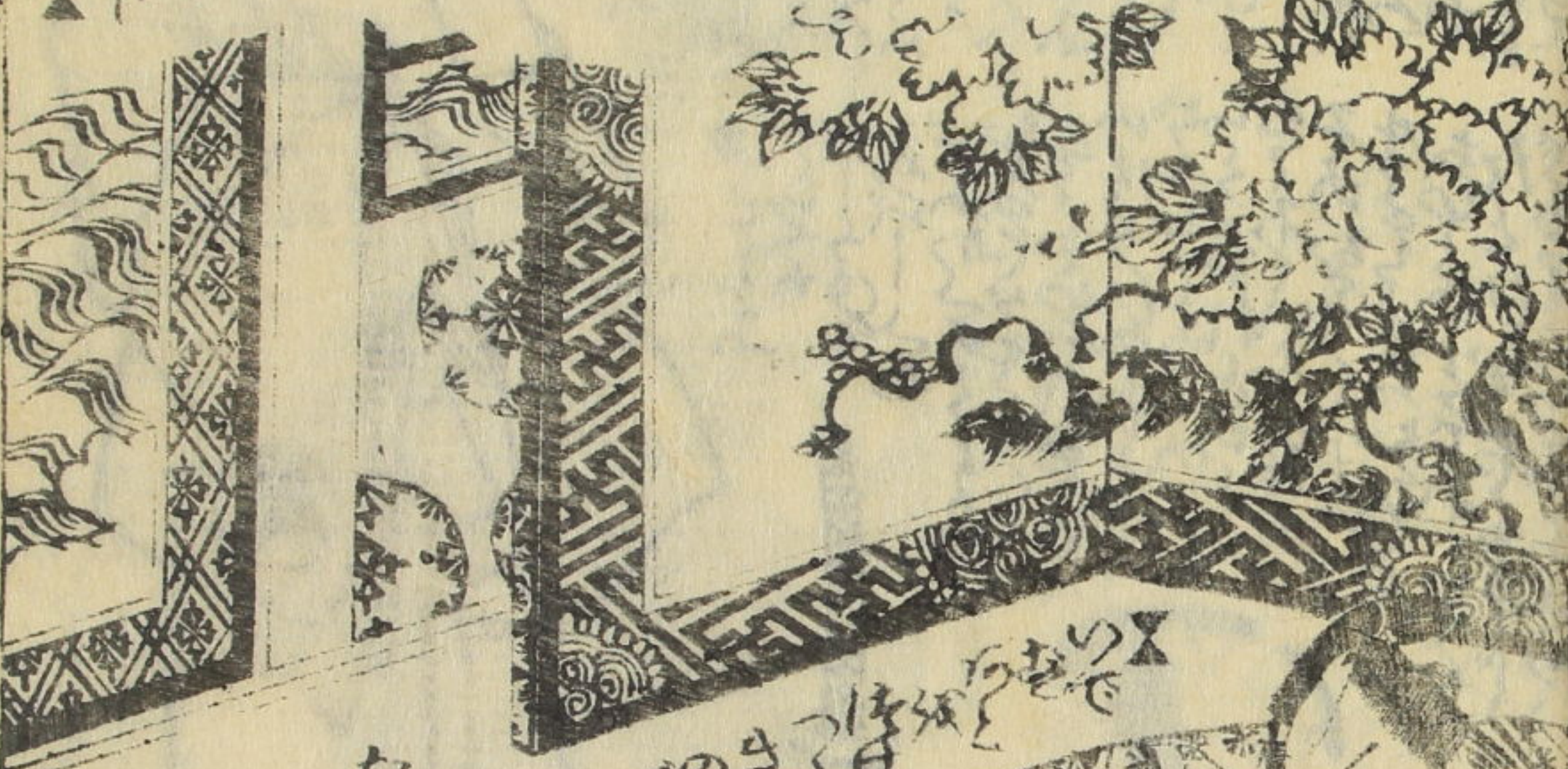






さるやうに... 密意を示す... 景好宇門小

時代三十四



密意を示す... 景好宇門小... 具るなり

十一

さるやうに... 密意を示す... 景好宇門小

時代三十四



密意を示す... 景好宇門小... 具るなり

十一

密意を示す... 景好宇門小... 具るなり









上りては... 尾... 正... 田... 竹... 三... 一... 四...



尾...

正...

田... 竹... 三... 一... 四...

一...

かのやま... 里...

田... 竹...

浄書 菊苑

つれづれに  
さるるも  
ののの  
さけぬ  
さけぬ  
さけぬ  
さけぬ  
さけぬ  
さけぬ

鮮牛肉丸 壹金二味  
小色百銅  
才一ひの淡おきるひ  
おんせの淡おきるひ  
るねはさよふゆの人  
たす用ひ



▲おれりあはれ  
おれりあはれ  
おれりあはれ  
おれりあはれ  
おれりあはれ  
おれりあはれ  
おれりあはれ  
おれりあはれ  
おれりあはれ  
おれりあはれ

為永春水作歌川國貞画

心そんまふらむむさし。こころの駒ふ心ゆるさ。と實は  
あはれ程深と守く。迷ひ易きりたのつと。余は忠臣  
貞婦と賞も。淫婦奸夫と替りらるも。其本心ハ一あり。  
何きこの明らねぬあはれ縁ど。見るにのりき聞ひつげ迷ふ  
んよ。迷はされ心駒ゆるる宵すと宵さるとにやん。  
甚しきふりゆり今此編り。顯寸所の阿无天此西郎の  
如き何り童蒙心ゆるして。心の由断為あふ。と真顔で  
説くも久しゆね。老悖たりと人々笑はん。

元治二乙 丑孟春

為永春水記る

時代三十五



藤浪春辰



小田大江國綱

秀貞一族









































# 春水作 國貞画

ついでにその正史の  
 らんさくの時ちりちりぬ  
 らぬれもあれらのまじぬ  
 むいれもさくくひつむのい  
 あらりとくもさうたささ  
 あらふいあんともさせんま  
 つのせさばやみくあふす  
 そりやりの且すともあれ  
 ささとのうごんまふ  
 あらふいあんともさせんま  
 あらふいあんともさせんま  
 あらふいあんともさせんま

朝 牛肉丸  
大色金栗  
 中色金栗  
 小包百釘

芥一ひぬを補ひせん  
 せのまますぬまふ  
 ささのまぐの人のひふ  
 利あさう  
 下谷さきせんをり

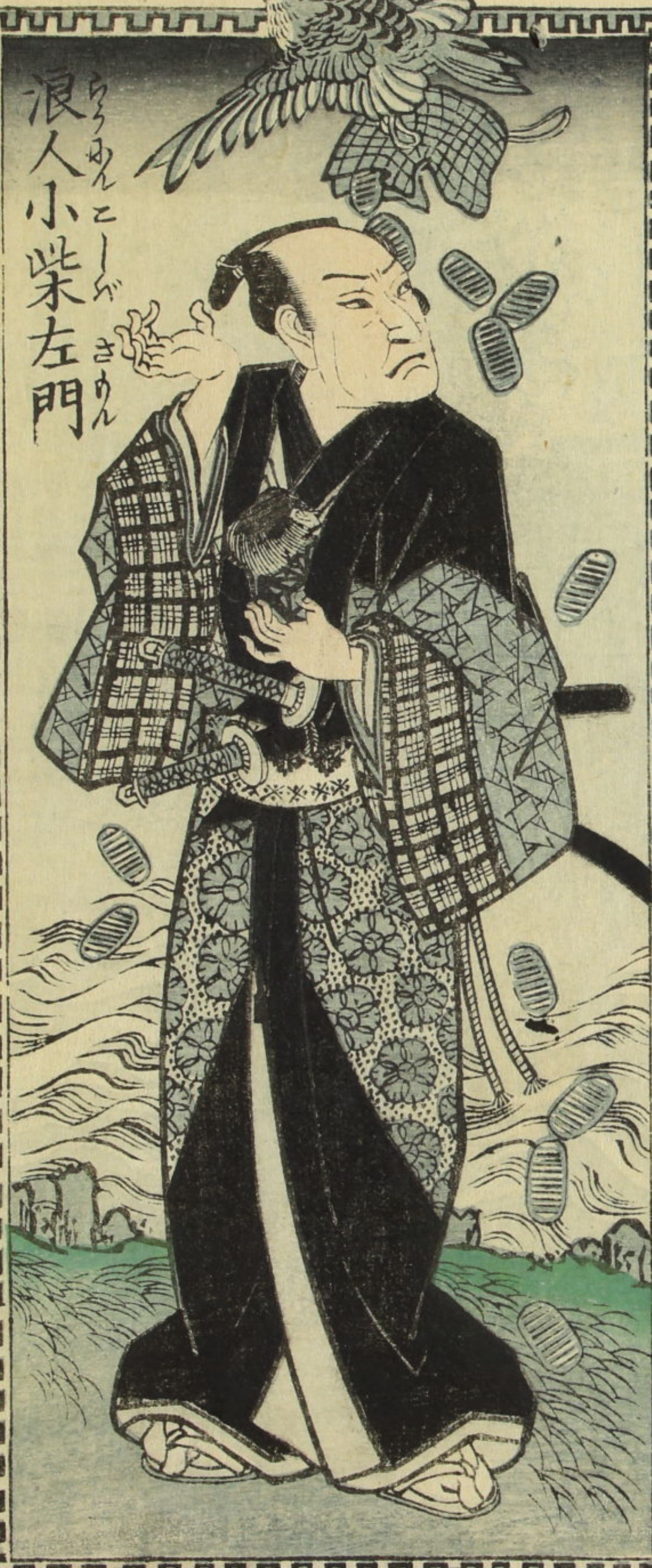


あまごをさめらぶじ  
 あらふいあんともさせんま  
 むいれもさくくひつむのい  
 あらりとくもさうたささ  
 あらふいあんともさせんま  
 つのせさばやみくあふす  
 そりやりの且すともあれ  
 ささとのうごんまふ  
 あらふいあんともさせんま  
 あらふいあんともさせんま

備書  
 支來  
 文來  
 文來

天下の品物草木禽獸虫魚甲貝おのく三百六十四品の群類  
 けりとりつと此品物いづきう人間の助とけらさくせんりのけし  
 らが中より虫の部三百六十四品の悉く人間に害あり開の  
 時候の不順なるより生かざるゆゑとど就中蠶の綾錦さる  
 ざるれ入のころろと擗りしるより分限を忘き不敬を生ト  
 何るひの淫乱の媒とけり果に命を殞せしむりたる然ハ凶國の  
 惡虫ありとて君子の是を惡むるらん蠶も化して蝶とされハ  
 這も一類と入るとけり春辰竊小蝶を役して國家を覆さ  
 んと謀るもかの虫類小害ありといふその所以ふ因めるけり

## 丙寅初春 爲永春水記る



浪人小柴左門

寺代三十一



浪花の市客

津屋出  
二三大

左門  
女児  
濱風

寺代三十一

























一、この世の世に人なりか  
 二、の世に人なりか  
 三、の世に人なりか  
 四、の世に人なりか  
 五、の世に人なりか  
 六、の世に人なりか  
 七、の世に人なりか  
 八、の世に人なりか  
 九、の世に人なりか  
 十、の世に人なりか  
 十一、の世に人なりか  
 十二、の世に人なりか  
 十三、の世に人なりか  
 十四、の世に人なりか  
 十五、の世に人なりか  
 十六、の世に人なりか  
 十七、の世に人なりか  
 十八、の世に人なりか  
 十九、の世に人なりか  
 二十、の世に人なりか  
 二十一、の世に人なりか  
 二十二、の世に人なりか  
 二十三、の世に人なりか  
 二十四、の世に人なりか  
 二十五、の世に人なりか  
 二十六、の世に人なりか  
 二十七、の世に人なりか  
 二十八、の世に人なりか  
 二十九、の世に人なりか  
 三十、の世に人なりか  
 三十一、の世に人なりか  
 三十二、の世に人なりか  
 三十三、の世に人なりか  
 三十四、の世に人なりか  
 三十五、の世に人なりか



一、この世の世に人なりか  
 二、の世に人なりか  
 三、の世に人なりか  
 四、の世に人なりか  
 五、の世に人なりか  
 六、の世に人なりか  
 七、の世に人なりか  
 八、の世に人なりか  
 九、の世に人なりか  
 十、の世に人なりか  
 十一、の世に人なりか  
 十二、の世に人なりか  
 十三、の世に人なりか  
 十四、の世に人なりか  
 十五、の世に人なりか  
 十六、の世に人なりか  
 十七、の世に人なりか  
 十八、の世に人なりか  
 十九、の世に人なりか  
 二十、の世に人なりか  
 二十一、の世に人なりか  
 二十二、の世に人なりか  
 二十三、の世に人なりか  
 二十四、の世に人なりか  
 二十五、の世に人なりか  
 二十六、の世に人なりか  
 二十七、の世に人なりか  
 二十八、の世に人なりか  
 二十九、の世に人なりか  
 三十、の世に人なりか  
 三十一、の世に人なりか  
 三十二、の世に人なりか  
 三十三、の世に人なりか  
 三十四、の世に人なりか  
 三十五、の世に人なりか









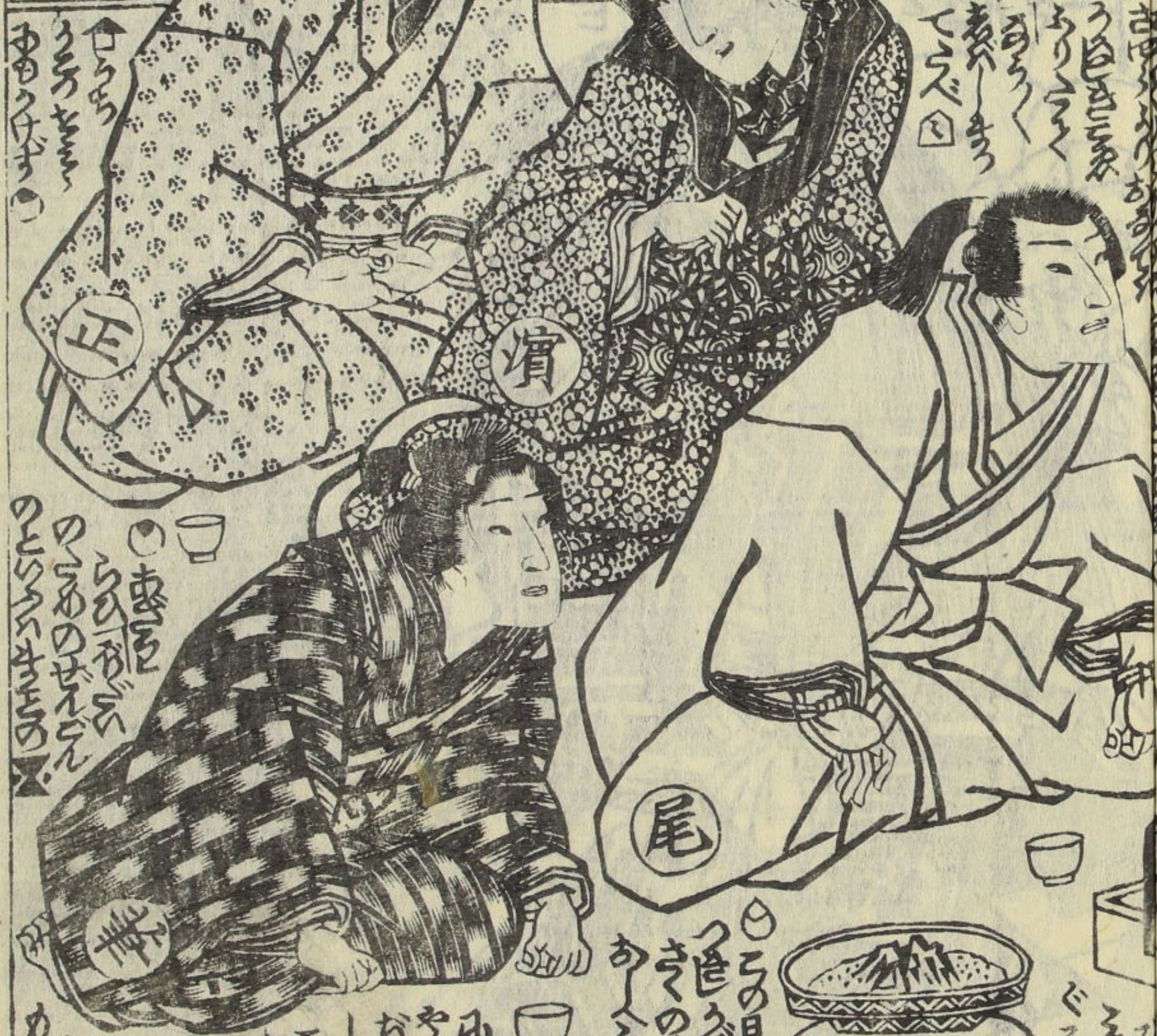




ゆいふくしん  
あまうきさう  
かのかたの  
あのかたも  
ゆいふくしん  
あまうきさう  
かのかたの  
あのかたも



人の心は  
ひたひた  
あまうきさう  
かのかたの  
あのかたも  
ゆいふくしん  
あまうきさう  
かのかたの  
あのかたも



ゆいふくしん  
あまうきさう  
かのかたの  
あのかたも  
ゆいふくしん  
あまうきさう  
かのかたの  
あのかたも

ゆいふくしん  
あまうきさう  
かのかたの  
あのかたも  
ゆいふくしん  
あまうきさう  
かのかたの  
あのかたも

ゆいふくしん  
あまうきさう  
かのかたの  
あのかたも  
ゆいふくしん  
あまうきさう  
かのかたの  
あのかたも







作 爲永春水著述  
画 梅蝶樓國貞筆

時代のなみ

三十六編



あまのんを板

